

外国人のみた日本 -- 日本人のマスク -- 一つの驚き (カルチャー・ショック)

著者	Degefa Boshera Terefe[著], 児玉 由佳[訳]
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	165
発行年	2009-06
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004745

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Terefe Degefa Boshera
出身地：エチオピア
所属：エチオピア・アディスアベバ大学開発学部
日本滞在：2008年12月～2009年7月

日本人のマスクー一つの驚き

タラファ・ダガファ・ボシエラ

二〇〇八年二月一七日、私は日本の地に初めて降り立った。関西国際空港だったのだが、そこで私はマスクをしている人たちを見かけた。その時直感的に思ったのは、この人たちは埃っぽいところか、異臭のするところで働いているからマスクをしているのだろうというものだった。しかし、その夜千葉に着いた後も、埃や臭いとは無関係な場所でマスクをしている人たちがいることに気がついた。

このマスク問題がとても気になって、周囲の人たちに、マスクのことを聞いてみた。答えは、インフルエンザの感染防止というもつともなものだった。しかし、マスクが微少なウイルスの侵入を効果的に防げるのか少し不思議に思った。

新しい文化的環境に身をおく者の常として、私はマスクについて考え続け、つい二〇〇九年二月九日付けのジャパン・タイムズの記事「Getting a Glimpse behind the Mask」（マスクの陰からの一瞥）に出会うことができた。この記事は、昨今のマスク着用について、マスクの種類、使用目的、費用、効果などを説明してくれていた。この記事のおかげで、日本人がマスクをする理由を大体理解することができた。そこでさらに考えたのが、マスクは、豊かな人々

が大気汚染に対して清浄な空気を吸うための一種の贅沢品なのではないかということと、こんなに多くの日本人がマスクをする背景には、重要な文化的特徴があるのではないかということである。つまり、もう少しこの件については考える必要があるということだ。

私は日本語が読めないのですが、インターネットを使って、日本人のマスクの歴史や現状についての情報を調べてみた。まず、日本のマスクは、古い歴史をもち、洗練され、様式化された伝統的な演劇の一部であるということが分かった。マスクをつけるという行為のルーツは、有史以前の神話や儀式にあり、それを洗練された芸術の形へと発展させていったらしい。このような発展や変容の結果、現在の多種多様な目的にもとづくマスクが普及していったと思われる。その目的として、春の花粉症の予防、防寒、健康的にみせる、素顔の時の顔隠し（主に女性）、風邪や空気中の微分子の拡散予防、そして他人に自分の病気がうつるのを防ぐといったものが挙げられていた。特に最後にあげた目的は、日本人の礼儀正しさの特徴の一つではないだろうか。また、犯罪を行うときにもいろいろなタイプのマスクをするというのも興味深い。

マスク着用についての情報収集活動は、今のところここまでである。なぜなら、この件については、日本に来たばかりの時よりも、もう少し理解できるようにしようと感じているからだ。マスクの着用が、日本の文化的特徴の興味深い一面を示していることは、一つの教訓として胸に刻んでおくことになるだろう。マスク着用には、病気から他人も自分も守るという目的がある。個人的なケアと社会的ケアが交差するところの根源には、日本人の礼儀正しさがあり、これからも日本文化の美質として称賛していきたい。

このような礼儀正しさは、日本の挨拶にもあらわれている。日本の挨拶は、様式化されていると同時に心のこもったものを感じる。そこには、エチオピアの挨拶と通底しているものがある。エチオピアの挨拶は、頻繁な握手や抱擁、キスのしぐさといった、日本の挨拶同様様式化されたところがある。形は異なるが、どちらも親しみや親密さ、相手への関心や歓待の表現なのである。マスクをすることや挨拶の中に現われる、文化に根ざした礼儀正しさという素晴らしい文化的特徴は、国境を越えて存在しているということなのである。

（客員研究員／訳＝尾玉由佳）